

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 坂下高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和6年6月24日(月) 13:30~15:40
- 3 開催場所 坂下高等学校リハビリ実習室
- 4 参加者
 

会 長 副会長 委 員	須栗 大 鎌田 則之 半沢 岳彦 村田 純一 久野 智治 丹羽 達也 秋山 小枝 長瀬 愛 伊藤あずさ 古田小百合	中京学院大学教授 連携推進部長 やさか観光協会会長 坂下まちづくり協議会理事 坂下公民館長 坂下中学校長 坂下小学校長 本校同窓会長 中津川市社会福祉協議会地域福祉課(欠席) 地域住民(欠席) 本校保護者代表
オブザーバー	森 益基 成瀬 博明 岩久 義和 深津 広樹 廣瀬 竜也	岐阜県議会議員(欠席) 中津川商工会議所専務理事 中津川市教育長(欠席) 中津川市定住推進部長 坂下総合事務所長
学校側	田並 千穂 足立 幸司 斎藤 良成 板津 裕也 勝川 誠 酒井 雅代 岡本 拓郎 林 尚志	校長 教頭 事務長(欠席) 教務主任 生徒指導部長 進路指導部長 地域探究科主任 地域連携コーディネーター

5 会議の概要（協議事項）

(1) 学校運営基本方針の説明について【学校長、各分掌長による説明】

意見 1：恵北地域等の生徒はどのような手段で登校しているのか

⇒北恵那バスで、登校する生徒、中津川駅まで出てから JR で登校する生徒もいる。いずれにせよ本数が少なく、非常に不便である。

意見 2：高校時代に将来のやりたいことを見つけるのは大変であり、卒業後離職する生徒もいる。そのような生徒が将来地元等へ戻ってきて、再びいろいろなところで活躍できるシステムがあるとよい。

⇒本校では 1 年生ではインターンシップ、2 年生の未来共生コースではデュアルシステムを行うなど様々な機会を設けている。また、地域創生キャリアプランナーの力を積極的に活用しながら指導を行っている。

(2) 本校の現状について【学校長、各分掌長による説明】

(3) 学校運営全般に関する意見交換について

意見 1：本校の生徒とまちづくり協議会と協働して、坂下駅舎の活用について取り組めたらよい。

意見 2：福祉科に在籍する生徒が少ないが、その生徒達は中学生時に離職率の高い仕事である福祉を学ぶ決断をしており大変立派である。福祉科募集の広報として、卒業生の活躍している姿や、事業所の取組などが紹介できるとよい。

意見 3：咲明日高校マルシェでは地域住民も本校生徒との生の声、会話を楽しんでいる。ここまでコミュニケーションが取れるようになるまでに、普段から地域の人と一緒に取り組む行事ができています。

意見 4：中学校では家庭科や総合的な探究の時間において福祉について学ぶ場面があるが、限られた時間の中で深めるまでは難しい。しかし身近に本校があること活かしていくことができればよい。

意見 5：コロナ禍によって若い人が高齢者とふれあう機会が少なくなった。三世代交流の取組など以前のような形に戻っていくとよい。

意見 6：福祉科を知ってもらうという観点で、幅広い人たちが交流できる市のボランティア養成講座等に夏休みを利用して参加するとよい。コロナが活動の減少という現状につながっているが、今後は活動が改善されていくのではないかと。

意見 7：福祉体験も非常に大切である。学校では学べないことを地域学習で行い、そこで人とのつながりができる。地域の魅力を知り、地域に貢献する態度を育むことができる。

(4) スクールミッション策定について

(5) オブザーバーから

意見1：定員割れをしない学校を目指してほしい。地域探究科については受検生の減少の中で健闘している。通信制がクローズアップされているが、どうしてニーズがあるのかを検討する必要がある。

意見2：最近ほかの学校でも地域に目を向けてきているが、本校は地域連携の最前線である。地域活性化については、中津川市と本校はベクトルが同じである。

意見3：咲明日高校マルシェについて、様々な方法を考えながら工夫した広報活動ができるとよい。

## 6 会議のまとめ

(1) 第1回学校運営協議会では、委員より今年度の本校学校運営計画を踏まえた学校運営基本方針について承認が得られた。

(2) 地域探究科については地域と連携しての教育活動が形となり、また中学生・保護者・地域住民にその活動が認められてきている。本年度地域探究科として3学年が揃い、最初の卒業生を送り出すことになるが、生徒の進路目標を実現していかなければならない。福祉科については、介護福祉士の資格を取得した上での、進路先の多様性について発信するなど学科の魅力の理解を広めていき、また地域の行政機関と連携しながら、介護・福祉・医療職等に従事することのすばらしさを伝えることで、志願者の増加に繋げられるようにしていく。